家庭でできる防災対策

防災対策で最も重要なものは、自助努力による対策です。一人ひとりができる防災対策について考えてみましょう。地震は遅かれ早かれ必ずやってきます。避けられないなら事前にしっかり備え、いかにして減災するかを考えてみましょう。

1. 耐震補強

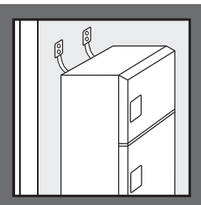
昭和56年6月以前の建物は、近年の地震で大きな被害を受けています。

家を強くしなければ被害は減らせません。先ずは耐震診断からやってみましょう。

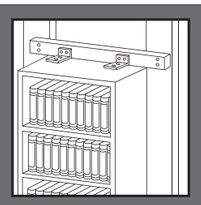
耐震診断については、都市計画課（☎22−0904）へお問い合せください。

2. 家具の転倒防止

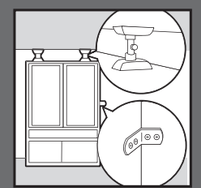
地震による負傷原因で最も多いのが家具の転倒や家具からの落下物によるものです。新潟県中越地震では負傷原因の約40％を占めました。家具の転倒・落下防止対策は減災のため非常に効果的です。いろんなものが市販されていますので、用途やニーズに応じたものを選びましょう。

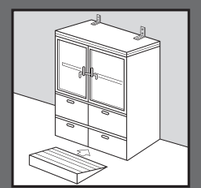

▲冷蔵庫などは固定ベルトで固定する。

▲桟（さん）にL型金具で固定する。


▲横木を取り付ける。

▲シャンデリアや天井から吊るした照明器具は釣り糸で四方から引っ張り固定。ガラスには飛散防止フィルムを貼る。


▲つっかい棒は家具の奥で固定（奥でないと効果なし）。天井との間に隙間埋め収容ユニット（市販）でも可能。


▲家具の下にくさび状のものを挿入し後方に傾斜させるだけでも効果的です。

3. 家族で話し合う

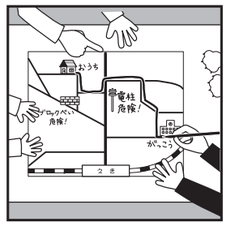
①非常時持出品の分別

非常時持出品は「あれば便利なもの」よりも、「無ければ困るもの」にしましょう。災害発生時すぐに持ち出す「一次持出品」と、避難生活に必要な「二次持出品」に分けて保管しましょう。

②家のまわりの安全地帯と避難ルート

避難する場合、どんなルートを通ると安全か確かめておきましょう。

区・自治会から配られた地域の防災マップを基に自分なりの避難マップを作っておくと実際の避難時に役立ちます。図上だけでなく、実際に歩いてルートを設定することが重要です。



③帰宅困難者にならないために

高島市民の約4分の1は市外へ通勤通学しています。地震で交通機関や情報網がまひしたら、家族のため徒歩で帰宅しなければなりません。地図を見るだけでは帰れません。自分の足で確かめることが必要です。高島では毎年ボランティア団体の主催で「サバイバル・ウォーク」が行われています。一度参加してみてはいかがでしょう。

★帰宅困難者とは

自宅から見て遠隔地（勤務先・学校・旅行など）で、主に大規模な地震に遭遇した時に、公共交通機関が動いていないため、帰宅することが難しくなった人々のこと。

■帰宅困難者の心得

- 慌てず騒がず、状況判断
- 携帯ラジオをポケットに
- 作っておこう帰宅地図
- 職場に準備、スニーカーと厚手の靴下
- 安否確認は災害用伝言ダイヤルや遠くの親戚を通して
- 一度は歩いて帰る訓練を

■帰宅困難者グッズ

- **最低限必要なもの**
  スニーカー、地図、水、携行食品、厚手の靴下
- **もっておきたいもの**
  食糧、携帯ラジオ、懐中電灯、雨具、タオル、ポケットティッシュ、リュックサック、軍手、救急用品

作ってみよう！ 防災グッズ

災害時、用意した防災グッズはガレキの下・・・ということも。今、手に入るもので急場をしのぐ手づくり防災グッズ。

新聞紙スリッパ

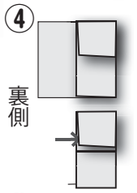
災害時、ガラスの破片などでけがをしないための応急対策

用意するもの
- 新聞紙
- セロハンテープ

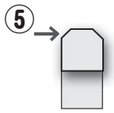
① 新聞の全面を半分に折り、さらに4つにたたんで折しろをつける。

② 上から4分の1のところを手前に折り、もう一度、手前に折る。

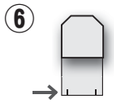
③ 縦の3分の1のところを後ろに折る。



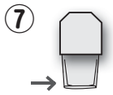
④ 裏側の部分を、はさみこむように重ねる。



⑤ スリッパのつま先の部分の角を三角におり、内側に折り込む。



⑥ スリッパのかかとの部分、端から1cmあたりに、縦1cmに切り込みを入れる。



⑦ 切り込みを重ねて、かかとの部分が立つように形を整えながら、セロハンテープで止める

⑧ スリッパを裏返し、底の部分を三角に折り込んで完成！

新聞紙スリッパ以外にも、左のようないろんな防災グッズがあります。出前講座で作り方などを紹介しています。講座の申込みなど、詳しくはお問合せください。

問 総合防災課
☎（25）8133